

# 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京工業大学】

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

#### Taki Plazaを活用した外国人留学生と日本人学生との交流機会の拡充

学生のための国際交流拠点であるTaki Plazaに、留学生相談窓口を移設し、従来の日本語・英語に加えて中国語での修学相談を開始しました。また、グローバルラウンジを整備し、海外放送の視聴や海外雑誌を閲覧することができるようにしました。令和3年後期より、多言語チャットルームも開室し、定期的に多言語で学生同士が交流する機会を創出しました。

その他、新入留学生歓迎レセプションの開催や、English Cafe等、「外国人留学生と日本人学生との国際交流活動の機会」を拡充させました。



〈Hisao & Hiroko Taki Plaza〉

### ガバナンス改革関連

#### 創立150周年に向け「アクションパッケージ」の策定

本学は令和13年に創立150周年を迎えます。創立150周年に向け、Team東工大として社会と共創しながら取り組むことで豊かな未来社会を引き寄せ、本学と世界の持続的発展を目指して「アクションパッケージ」を策定しました。これは本学が目指す方向性に基づき、教育、研究、ガバナンス改革に繋がる意欲的・挑戦的な取組やチャレンジ目標も盛り込んだもので、定期的に見直ししながら実行する予定です。

#### 初の「東京工業大学統合報告書2021」を発刊

本学は、「世界最高峰の理工系総合大学」の実現を目指して改革に取り組んでいます。このたび、その現状と課題を幅広いステークホルダーにご理解いただき、社会と対話しながら改革を進めていくことを目的として「東京工業大学統合報告書2021」を発刊しました。学長、理事・副学長、研究者、学生に加え、学外の経営者や有識者による対談や鼎談、座談会を通じて、本学の経営戦略、教育、研究、産学連携、ダイバーシティなどの取り組みについて議論を交わし、どのような改革を進めているかを紹介しています。特集では、世界との共創について取り上げ、新たな知の創出のために国際的な協働を続けようとする本学の取り組みやビジョンが描かれました。



〈東京工業大学  
統合報告書2021表紙〉

### 教育改革関連

#### B2Dスキームの推進

※「B2D」とは…学士(Bachelor)2年生から博士(Doctor)取得／進学を目指す学生のための本学独自の用語です。「早く研究を始めたい！」という学生の声を受け、平成31年度から「B2Dスキーム」の特別選抜を開始しました。第1期生16名が学士課程3年次生となり、標準学修課程よりも1年早く研究に着手しました。また、早期卒業をして令和4年4月から修士課程に進む学生も3名出てきました。令和3年度の2年次生は新たに15名が参加登録し、着実にスキームの基礎が固まってきています。

#### より質の高い教育を目指し「全学FD2021」を実施

より質の高い教育に向けた組織的な改善の取り組みである、教員向けの研修「全学FD2021」をオンラインにて開催しました。今年度の研修テーマは、「ニューノーマル時代の授業デザインと研究室内教育—Student-Centered Learningの実現に向けて—」とし、平成28年度より始まった本学の教育改革の柱の1つである、「学生が自ら学び考える教育の実現」をさらに深め発展させる内容となりました。

#### 新しい学修管理システム「T2SCHOLA」の運用を開始

自らの学習に能動的に関わる自律した学習者を育てるために、新しい学修管理システム「T2SCHOLA」の運用を開始しました。これにより、教職員が積極的にオンライン学習コンテンツを活用するとともに、学生が授業内外において、効果的・効率的に学習できる環境が構築されました。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 自己点検評価の実施

令和6年3月のスーパーグローバル大学創成支援事業終了後を見据え、各施策の振り返り、検証、問題点の洗い出しをしました。具体的には、全ての施策について、「施策の進捗状況」、「達成状況」、「今後の対応」の3項目を記載し、達成状況を3段階で評価した自己点検評価書を作成しました。自己点検評価の結果について令和4年度に学外有識者からの助言を得て、更なる改善を進める予定です。

また、本自己点検評価書では、令和12年に向けた本学の将来構想である「指定国立大学法人構想」についても関連する事項を記載し、本事業を推進したことで、本学が発展していることが分かるようにしています。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### 国際協働推進拠点「東工大 ANNEX Berkeley」を開設

米国カリフォルニア州バークレーに、国際協働を推進する海外拠点「東工大 ANNEX Berkeley」を10月に開設しました。本学は平成30年に新たな海外拠点「東工大 ANNEX Bangkok」(タイ)を、平成31年には「東工大 ANNEX Aachen」(ドイツ)を設置し、リサーチショーケース・ワークショップを通じた協働機会の発掘や共同研究テーマ創出を推進しています。東工大 ANNEX3拠点目の新規開設により、更なる国際広報の強化及び本学レピュテーションの向上に繋がっています。



〈東工大 ANNEX Berkeley〉

### 東工大グローバルウェビナー(Tokyo Tech Global Webinars)シリーズの開始

新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限されている状況下においても、海外及び国内の大学や研究機関等との交流や協力の価値を認識し、促進し続けることを目指して「東工大グローバルウェビナーシリーズ」を開始しました。オンラインシンポジウムやウェビナーを通じて、科学技術や国際協力に関連した、本学の様々な研究成果や新たな取り組みを発信し、ポストCOVID-19時代における教育、研究のあり方について模索しています。

## 【海外の大学との連携の実績】

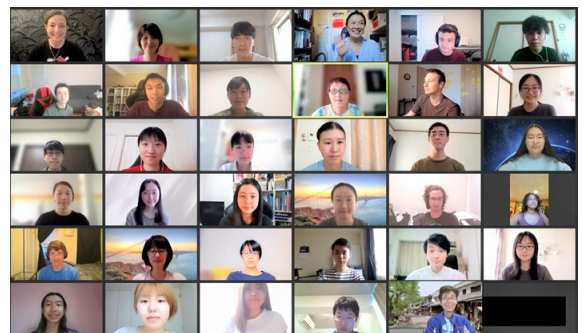
### ジョージア工科大学教員による「グローバルリーダーシップ実践」授業の実施

協定校であるジョージア工科大学の教員が教える集中授業を平成30年度から毎年開講しています。コロナ禍で移動が制限される中、6月15日から25日までリアルタイム双方向型のオンライン授業を実施し、15名の学生が履修しました。これまでの実績を活かした事前準備に加え、多彩なツールやティーチングアシスタント(TA)も活用したことによりオンライン授業であっても成果をあげることができました。授業では、グループワークを中心に、多様な文化背景をもつ参加者同士で話し合い、異文化でのチームビルディングの方法を学びました。

### マサチューセッツ工科大学との連携

工学院、物質理工学院、環境・社会理工学院の3学院は原子力エネルギー教育でマサチューセッツ工科大学と学生交流協定を締結しました。今回の新協定により令和3年度から正式なプログラムに昇格し、交流が本格化しました。

また昨年度に続き、マサチューセッツ工科大学ジャパンプログラム(MITジャパン)と共同で、双方の学生がペアを組んで日本語と英語を学び合う国際交流プログラム「語学タンデム」をオンラインで開催しました。7月から8月にかけて約1ヵ月間行い、東工大生22名とMITジャパン22名の計44名が参加しました。



〈マサチューセッツ工科大学との語学タンデムの様子〉

### アーヘン工科大学との連携

東工大 ANNEX Aachen の設置を契機に、従来の交換留学プログラムに加えて、博士共同指導プログラムを開始しました。この新たなプログラムは、大学間で協定等を締結し、いずれかの大学の博士(後期)課程に在籍する学生がもう一方の大学に原則 0.5 年以上滞在して当該大学教員の研究指導を受けるものです。博士(後期)課程において国際経験を積むことで国際的視野を広め、国際協働研究への意欲を育んでいきます。

また、研究面では、水素やSmart Wearablesなど様々な領域でオンラインワークショップを開催しており、両大学の研究者が新鮮な刺激を受けあう良い機会となっています。

## ■ 自由記述欄

### 海外からの留学希望者へ向けた情報発信の強化

本学への留学希望者向けHP「Prospective Students」を全面リニューアルし、本学への進学情報へのアクセスの利便性を高めました。

その中のトピックスの1つとして、英語動画シリーズ「My Tokyo Tech」を、海外受験者層向け英語WEBサイト「Discover Tokyo Tech」および東工大YouTubeチャンネルにて公開しました。動画には本学で学ぶ留学生が出演し、本学での研究生活、寮生活、学生生活、日本での出来事など、様々なトピックスを取り上げます。将来、本学への留学を希望する方々が学生生活を想像していただけるよう、留学生の視点で制作されました。現在7本の動画が公開されています。今後も「東工大生の今」を紹介する様々な動画を発信していきます。



〈My Tokyo Tech シリーズの紹介写真〉